

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

学校の現状

○児童

素直で明るい児童が多く、本校の特色である縦割り班活動、集団登校などを通し、学年の垣根を越えた交流が盛んであり、下級生をいたわる姿勢が身に付いている。遅刻、長期欠席者が少なく、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。学習面では、平均を若干下回る児童が多く、基礎・基本の確実な定着が必要である。荒川、隅田川に囲まれた地域のため、他地域との接触が少なく、切磋琢磨する機会が少ない。

○教職員

若手教員や臨時的任用教員が増え、指導力の向上が必要である。主任教諭を活用し校内OJTを推進する。全校体制で、児童の学力向上に意欲的に取り組む姿勢ができています。さらに、地域やPTA行事には積極的に参加し、信頼に応えようと努力している。

○保護者、地域

昨年度、創立70周年を迎え、和やかな雰囲気の中、記念式典などの周年行事を開催することができた。「地域の学校」として多くの方々から親しまれていることを実感できた。これからも地域との絆を大切にし、信頼関係を構築してゆきたい。

成果

○区調査の結果から、学力低下が明確になり、全教員が授業改善に対する決意をもち、授業力向上に取り組めた。

○体力調査の結果から、柔軟性に課題は残るが、持久力や跳躍力など都の平均を上回った。

○挨拶の習慣の徹底により、校内に元気のよい挨拶の音が響きあうようになった。

○創立70周年記念式典挙行に向け、学校と地域、PTAの連携が深まり、より良い関係を構築した。

課題

○若手・臨時的任用教諭が増える中、学校全体の授業力を伸ばし、児童の学力を伸ばすための校内OJT体制を見直し、互いに高め合う校風を作り出す。また、家庭と連携し児童の家庭学習の定着を図る。

○「地域を愛し、地域に愛される宮城小学校」として、地域唯一の小学校としての役割を果たすために、学校のもつ力を提供し、「地域との連携」に努めていくことが課題である。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 学力向上**

- ・基礎的・基本的な学習内容の定着を通して学力の向上を図る。
- ・学習規律・学習習慣を確立する。
- ・家庭学習・補充学習の充実を図る。

重点的な取組事項－2 豊かな心、健やかな体の育成

- ・挨拶、早寝・早起きなどの生活習慣を定着させる。
- ・全校体育、遊びを通しての体力の向上を図る。
- ・異学年交流の中で自らの役割を自覚し、他との関わりを深める。

重点的な取組事項－3 小中、幼保小、地域・家庭との連携

- ・小・中連携を進め、児童・生徒の発達に見合った適切な指導を実施する。
- ・幼・保・小連携を進め、園児・児童の発達に見合った適切な指導を実施する。
- ・地域の方との交流の場を作る。行事を通し、児童と保護者・地域の方とのふれあいの機会を作る。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**重点的な取組事項－1 学力向上**

- ・昨年度から継続して取り組んできた、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られ、区学力調査通過率80%越えに繋がった。この結果をこれからも続けるよう、SP表・ポートフォリオ分析による個々のつまずきの把握や、分析を通じた基礎・基本の定着の徹底を継続して図っていく。
- ・生活指導部から、学校に持ってきてよいものの確認や挨拶方法の徹底を図った。加えて、足立スタンダードの浸透により、児童の学習規律・学習習慣の向上が見られた。

- ・毎日宿題を出すことを約束し、保護者と連携し家庭学習の習慣定着が図られた。来年度は、中学校と連携した家庭学習の在り方を深めてゆく。

重点的な取組事項－２ 豊かな心、健やかな体の育成

- ・毎朝、校長が校門で挨拶をして児童を迎え入れた。これにより挨拶がより習慣化するとともに、朝一番での児童観察により、生活指導面で担任との連携を図り、素早い対応を行った。
- ・一年を通し、登校班による集団登校をしているため、自分の近隣や学年を超えての交流ができ、加えて、上級生が下級生をいたわるという心豊かな校風が継続し作り出されている。朝からの集団活動の徹底のため、早起き、朝ご飯という基本的な生活習慣が定着している。そのため、遅刻者が少なく、長欠傾向の児童もいない。
- ・児童が外に出て遊ぶことに抵抗を感じる冬季に、持久走、短なわ、長なわの取り組みを中休みに意図的に設け、一年を通し、積極的に校庭で動きまわる児童の姿が見られた。特に、秋から区教委より投力向上の依頼を受け、学習用具の工夫を行い、体育だけでなく休み時間も取り組んだ。
- ・学校生活全体を通じて道徳教育の充実に努めてきた。「いじめ防止」に焦点を当てた授業を全学級で実施した。児童会による「いじめ防止運動」により、各クラスで「いじめ防止スローガン」を考え、いじめに対し意識の高い学校を作り上げようとする気持ちを児童から呼びかけることができた。これからも、いじめの早期発見、早期対応、早期解決する校風をさらに強固にしてゆきたい。

重点的な取組事項－３ 小中、幼保小、地域・家庭との連携

- ・江南中学校との関係をより深め、教師同士の交流の場を設け合同の授業研究を行った。また、中学校部活見学や授業見学、ソーラン節指導、生徒会との交流等児童・生徒との交流の機会を増やした。
- ・幼稚園・保育園との教師、保育士同士の交流の機会を多く設け、乳幼児、児童との遊びを通じた交流、体験学習、交流給食に加え、学芸会、運動会等の行事で交流の場を設けて積極的に触れ合う機会を多くした。
- ・学校公開には、多くの保護者・地域の方々にご参観をいただいた。学校からもメール配信を密に行ったことは、多くの保護者の方より高い評価をいただいた。これからも、ホームページの充実など、さらに積極的な情報発信を心がけ、協創する関係づくりを進めてゆきたい。
- ・「地域とともに歩む小学校」として、地域行事に学校を積極的に活用していただくとともに、教職員も進んで地域行事に参加し、地域との連携を深めることができた。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

毎朝、挨拶をしながら子供たちの登校の様子を見守っています。高学年の子供たちが率先して挨拶ができるので、低学年の子たちもそれを見習い元気いっぱい挨拶する子がとても増えました。宮城小は登校班による集団登校で、朝から異年齢間での交流が始まります。校内でも、縦割り班活動を取り入れているため、上級生が下級生の面倒をみる。下級生は上級生に親しみと尊敬の念をもつ。そんな互いを大切にする姿勢が自然と身に付いています。

学力面では、基礎的・基本的な確実な定着を目指した成果が表れてきています。これからは、基礎・基本から発展させ、思考力・判断力の向上を目指します。そのために、教員は1時間毎の授業を充実させ、ねらいを明確にし、子供たちに考えさせる場を工夫して取り入れます。

各ご家庭では、毎日学習に取り組む習慣が身に付くよう、宿題や読書など家庭学習習慣の定着にご協力ください。加えて、早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活リズムの定着にもご協力いただきたいと思います。

地域の皆様には、小台・宮城地区唯一の小学校として、いつも変わらぬご支援・ご協力、感謝申し上げます。これからも、地域の皆様に貢献できる学校づくりを目指して参りたいと思います。

2. 平成29年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
区学力調査目標通過率向上	H28 69.3% → H29 75%	国語 82.0% 算数 81.2% 2教科平均 81.6%	目標を達成。しかし、この2年間、2年生が低く、1年生での指導を見直す必要がある。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎・基本の定着	区学力調査における目標値通過率75%を目指す	年3回、区学力調査の再調査を行い、SP表作成を通し、児童の習熟に応じた指導を行う。土曜授業で増加した時間を活用し「基礎学習の時間」を設定。東京ベーシックドリルを活用し補充学習や発展学習を行う。また、昼休み後の「パワーアップタイム」でも補充学習に取り組む。「そだち指導員」と連携した個に応じた指導の徹底。 あだち小学生基礎学習教室に代わり、漢検、数検を学校を窓口にして実施し、児童の学習意欲の向上につなげる。 本に親しみ読書の習慣を身に付けるため、年間3回の読書旬間を設定する。また、図書ボランティアさんと連携し毎週金曜日の朝、読み聞かせを実施する。	区学力調査4月の通過率が81.6%となり、目標を達成した。 基礎学習の時間やパワーアップタイムなどの補充学習がしっかり定着し、児童の基礎・基本の定着向上につながられた。 江南中学校と連携し、漢検、数研を実施し、児童の学習意欲向上につながった。 図書ボランティア産のご協力により、毎週金曜朝の読み聞かせを年間を通して実施した。	本年度も12、1、2月に再調査を行い、習熟が低い問題を洗い出し、基礎・基本の更なる徹底を図る。基礎・基本の向上は認められたので、来年度以降、思考力・判断力・表現力の向上を図る指導法を改善してゆく。 来年度も江南中学と連携し、漢検、数研を実施して、児童の学力向上につなげる。読み聞かせを継続していただくと共に、図書環境の整備を継続してゆく。	◎
教師の授業力向上	学力定着指導員と管理職の話し合いを毎月1回実施する 若手教員の授業観察・指導を毎月1回以上行う	学力定着指導員訪問日に、管理職との打ち合わせを行い、教員の現状・課題を確認する。主任教諭5名にそれぞれOJT対象者をつけ、毎月授業観察を行い指導する。	若手教員が多い中、指導員の先生の指導を素直に聞き、授業改善を図れた。 管理職が、毎日授業観察を行い、教員に対し助言を行えた。	年度途中で国語の指導員が不在になったが、主任教諭のOJTによる指導が行えた。管理職の授業観察は、毎日短時間でも継続させたい。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
家庭学習・補充学習の充実	1日、低学年20分、中学年40分、高学年60分(宿題、読書等)の家庭学習を95%以上の児童が実行する。	学習状況を家庭へ知らせる「かがやき」を作成・配布し、長期休業期間中の家庭学習のめあてをもたせる。家庭学習の習慣が定着していない児童については、放課後個別に指導を行う。夏季補充教室を夏季休業後半にも設け、学習の継続を容易にする。	家庭学習の習慣は、確実に向上しており、保護者からの理解も得られている。不十分な児童には、放課後補充で個別指導を行った。	来年度から、中学校との連携で、自主的な学習態度を向上させるため、4年生以上に「自学自習ノート」の取り組みを始める。	○

重点的な取組事項－２ 豊かな心、健やかな体の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
望ましい人間関係づくりと、体力の向上を図る。	異学年交流行事の完全実施。スポーツテスト、都平均値達成。いじめの早期発見、対応、解決。欠席児童との連絡。当日内100%。	毎日の集団登校。縦割り班活動を10回実施。スポーツテストは、61%の項目で都平均を上回った。 生活指導部と担任が連携し早期発見・対応ができた。養護教諭、副校長により9時半までには確認できた。	次年度も登校班による集団登校、異学年交流を計画的に実施し、思いやりのある児童の育成に努める。学校だけでなく、保護者屋との関係を強固にし、学校、家庭が連携し、いじめや長期欠席の未然防止に努める。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
異学年間での交流の活性化	一年間を通した集団登校。縦割り班活動、年10回。縦割り班での「宮城まつり」9月開催。	P T A校外委員会と連携し、一年間を通し登校班による集団登校を実施する。縦割り班活動、クラブ活動、委員会活動など特別活動において、児童の自主性をさらに伸ばすような指導を工夫する。	年間を通した集団登校の実施。縦割り班活動、「宮城まつり」も計画通り実施した。異学年間交流を通し、互いを認め合い、高学年は下級生に対し優しさと思いやりをもって。下級生は高学年に対し尊敬の念をもち接することができた。	登校班は、P T Aと協力し合い行っているが、縦割り班活動・宮城まつりもできる限り保護者に公開し、児童の様子を認めていただく場を設ける。	◎
体力の向上	スポーツテスト8種目、6学年、男女計で、60%以上の項目で都平均を上回る	スポーツテスト8種目、6学年、男女計で、60%以上の項目で都平均を上回る年3回「体力向上月間」を設け、中休みを活用し、持久走、短縄とび、長縄とびの取り組みを行う。上履きのまま外遊びができる特色を生かし、外遊びを進んで行う。	全96項目中、58項目が都平均以上となった。全体の60.4%となり、昨年度の都平均以上44.8%から大幅に向上。目標を達成した。寒さが厳しくなる頃に3回の「体力向上月間」を実施したことで、外遊びが定着し、寒い中、多くの児童が外遊びで動き回る姿が見られた。	上体起こし、シャトルラン、立ち幅跳びは全学年達成。握力、長座体前屈は都平均よりかなり落ちるため、体育学習で課題解決を図る。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめ・不登校の未然防止	いじめ、不登校の未然防止	児童の心情を受け止め、悩みを早期に発見・解決できるように、生活指導主任を中心に組織的に対応できるようにする。 教職員の人権意識やいじめ防止に向けた研修会を年2回実施する。 児童会による「いじめ防止の取り組み」により、各学級で「いじめ防止スローガン」を作成する。 連絡のない欠席児童に対し、朝、養護教諭、管理職から電話連絡を行い、当日内に必ず欠席理由を確認する。	いじめ指針の変更により、いじめの0は達成できなかったが、学校が組織として、いじめの早期発見、対応、解決を図ることができた。 人権、いじめ防止研修会2回実施。 いじめ防止スローガン「君の手が、いじめをなくす第一歩」 無連絡欠席児童に対する連絡。9時までに確実に行う。体調不良以外の長期欠席0。	担任だけでなく、学校全体で児童を見守れる組織の確立を来年度も継続して構築する。	○

重点的な取組事項－3 小中、幼保小、地域・家庭との連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校、保育園、幼稚園、地域・家庭との連携を深める。	小中連携合同研修6回実施 児童・生徒間の交流活動を年間5回以上実施。	江南中との研修会6回実施。相互の授業公開、研究授業実施。児童・生徒交流6回実施。 保育園、幼稚園との交流も予定通り実施し交流を深められた。	中学との連携強化に向け、教員が中心となり次年度計画を作成。より実践的な交流を深めたい。 幼保小連携も	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
江南中学との連携	小中連携合同研修6回実施 児童・生徒間の交流活動を年間5回以上実施。	小中公開授業、各1回開催 教科ブロックを設定し、ブロックごとに研究授業3回実施。 中学での授業・部活動体験(7月)合唱コンクール参観、合同百人一首大会、ソーラン節指導、中3アシスタントティーチャー、合同オリパラ教育などの生徒・児童交流の実施。	江南中学とは、予定されていた事業を全て行えた。児童・生徒の情報交換はもちろん、教員間も個人的な交流を深め連携を確立した。	漢検、数研開催や百人一首合同練習会など、今年度から始めた事業を発展させると共に、更に新たな交流を深めさせてゆきたい。	◎
幼稚園、保育園との連携	教員が年間1回以上保育園参観を行う。 小学校教員の出前授業 年間2回の児童・園児交流活動。	小学校スタートカリキュラム実施。 宮城保育園との教職員交流研修 宮城・三星保育園、東京白百合幼稚園と園児、小学生との交流。 運動会、音楽会への招待。	全教員が保育園参観を実施した。また、1年生担任による保育園での出前授業。校長による年長児保護者への講演を行った。 児童・園児の交流も計画通り実施した。	年度当初に、ねらいを明確にした計画を作成し、効果的な交流を図れるようにする。各園の行事に参加し、情報交換を密にする。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域・家庭との連携	学校行事前にメール配信。行事後に学校HP更新100% 地域行事へ教員が2名以上毎回参加する。	学校行事ごとに、管理職から家庭へメール配信。教員によるHP更新を行うことで、学校の教育活動を周知する 不審者情報や感染症、災害などへの対策をメール配信で効果的に周知する。 地小協、地区対、町会行事、小中合同PTA行事などへの教員の参加を通じ、地域との連携を図る。	行事前のメール配信。行事後のHP更新は確実にいった。更に、感染症、不審者情報などの緊急連絡だけでなく、宿泊行事での児童の様子などもメール配信で情報提供をいった。メール配信に対する保護者の信頼が高まった。 地少協、青少対、町会等の行事には、毎回2名以上の職員が参加した。	学校からメール配信を積極的に行ったことにより、保護者のメール配信への信頼が高まり、緊急連絡網を廃止することができた。写真添付でさらに情報を高める。	○

3. 学校活動全般について

登校班での集団登校や縦割り班活動を通し、学年や学級の枠を越えた子供同士の交流が自然にできているのが本校の特色で、たとえ学年が違って身近な存在として互いに認め合っています。そのため、高学年は下級生のお手本であることを自覚し何事にも積極的に取り組みます。低学年は、そんな上級生にあこがれをもち、自分たちも大きくなったらと強く感じています。この良さは、今年度も運動会や音楽会で発揮することができました。これからも、子供同士の交流を通し、思いやりのあふれる学校を作っていきます。

昨年度課題として挙げた学習面で、今年度大きな成果が見られ、児童の基礎的・基本的な事項の定着が向上しました。この成果をもとに、これからは、思考力や判断力、表現力といった応用力の向上にも目を向けて指導方法を工夫してゆきます。

多様な児童が在籍する中、来年度、特別支援教室が開設されます。一人一人の実態に応じ、専門性をもつ教員が個別や小集団指導を通し、集団適応能力の向上にも努めてまいります。